

ほご通信

第43号 (2010年3月)
発行:本郷たかし後援会
女川町黄金町13番地の2
TEL 0225(53)3509
FAX (90)3606
<http://blog.goo.ne.jp/hongo-takashi/>
E-mail t.hongo@abeam.ocn.ne.jp

『プルサーマルを考える』

本郷隆

ドカ雪が降っては穏やかな陽射しに溶かされ、溶けてはまたどっと降る…そんな日を繰り返しながらも確実に春の息吹を感じる今日この頃です。

さて今回は、いま最もホットな話題である『プルサーマル導入』について報告いたします。

平成20年11月6日に東北電力株式会社が国にプルサーマル導入の許可を申請し、1年2ヵ月後の本年1月8日に国はそれを許可しました。この後、女川町・石巻市・宮城県の三者が了承すると、原発3号機でプルサーマルを開始する(実際の稼働はそれから3〜4

年後)こととなります。

私たちは原発対策特別委員会はこの間、専門家や東北電力よりその内容についての説明を聞いたたり、国・県より安全性についての報告を受けたり、本年からプルサーマルを導入する愛媛県伊方町を視察したりと、できる限りの研修・研究を行なってきました。

また国・県としても、住民皆さんの理解を得るために「各種フォーラム」や「説明会」を開いてきました。(参加された方も多いのではないのでしょうか)

本年2月17日、プルサーマルに関しての最終的な「原発対策特別委員会」が開催されました。事前に新聞で大きく報道されたせいか、テレビ局4社を始め多

くの報道陣と傍聴人が見守る中、各議員がそれぞれ意見を述べ合いました。

私の印象では、プルサーマル導入に対して明確に反対したのは2人の議員で、その他の議員はある程度の条件をつけながらも、あらかじめ導入に賛成の意を表したのと思います。

以下に委員会での私の発言内容を紹介します。

昭和40年代から50年代にかけて、原子力発電所誘致に絡み、その賛否で女川町は真二つに割れました。結果として、先人たちの英断により原発が建設され、そのおかげでわが女川町は合併することなく、今現在も健全な行財政運営をしています。

そのことを最初に押さえ

ておかねばなりません。

プルサーマル導入の賛否如何は、現在稼働している原発をどのように判断するのか、にかかってくるものと思います。現存する原発を危険と考える人たちはプルサーマルを導入することによって、さらに危険が増すので絶対反対の立場でしょうし、かたや原発との共存共栄をめざす人たちは、「プルサーマル導入によって制御棒の効きが悪くなるとか、放射能が増えるとかの危険性が増すものの、それらのリスクは許容範囲内であり、安全性は十分に確保される」という国の判断を信用して、導入もやむなしの立場にあるのではないのでしょうか。何よりも、『自分のところで創り出す危険なごみ(プルトニウム)を、自分のところで処理する』のは当たり前だと考えます。それは全国に17カ所あるすべての立地地域にいえることですが…。

私自身はそうした立場か

ら、容認の意を表しました。国は平成18年度から20年度までの3年間、プルサーマルを普及するために「核燃料サイクル交付金制度」を施行しました。(導入する県と立地地へ総額60億円を交付するというもので、7地域が対象になった)

それをこの度、さらにプルサーマルを推進するため、国は同様の制度を再開したのです。前記7地域のいわゆるフロントランナーとのバランスを考えて、今年の7月末までに導入に同意すると総額で30億円が支給され、来年3月までの同意だと25億円、その後は1年遅れるごとに5億円ずつ減らされ、平成27年3月末で終了するというものです。

あまりに露骨過ぎるというか、エゲツないというか、バナナのたたき売り(まだシャレがある)じやあるまいし、お上の役人というものはどうしてこんなに貧困な発想しか持ち得ないのでしょうか。

Q 生涯学習メニューに議会傍聴を

A 受講者のニーズに応えます



Q 生涯学習のメニューに、議会傍聴を取り入れている自治体が多々あります。

A 町づくりには町民・議会・行政の三者が情報を共有し、知恵を出し合うことが理想であり必要なことであると考えます。

より多くの町民に議会審議を傍聴してもらうことは議会や行政に対する理解を深めるとともに、そうした『町づくり』のための第一歩になるはず。

そこで、教育委員会が所管する「老壮大学講座」や「女性セミナー」、あるいは希望者を募って行なう出前講座の「特別メニュー」に（小・中学校の総合的な学習において）、議会傍聴を取り入れてはいかがでしょうか。

A 教育長 行政・議会・町民が情報を

本郷 隆 議員

共有し、町づくりを図ることは必要です。議会傍聴が講座メニューになじむかは、受講生のニーズによると考えます。老壮大学は高齢者の生きがいづくりを目的に楽しみながら学習し、女性セミナーは学ぶ・実践する・交流するといった生涯学習の基本スタイルを確立しており、小中学校の学習メニューに取り入れるには工夫が必要です。

また、老壮大学、女性セミナーとも傍聴席以上の出席数であるため課題があり、高齢者への配慮も必要です。教育委員会では議会傍聴の出前講座で情報提供します。

Q コバルトール女川にさらなる支援を

コバルトール女川が今期念願の東北一部リーグに昇格したことは大変喜ばしいことです。これまで、町内企業・町民・サポーター有志を中心に支援してきましたが、一部昇格となると、東北全域での試合開催など今後はさらなる支援が必要になってきます。

A 今後 も 支援を継続

町がコバルトール女川に対して、現有の施設開放でできる限りの支援をしていることは十分承知していますが、行政サイドからのより手厚い支援策について何か考えてはいませんか。

町長 コバルトール女川の支援については、チームが本町で活動を始めたころから施設設備の開放や雇用の場の確保等々、支援してきました。

この度、東北一部リーグへの昇格はすばらしいことであり、今後の活躍も期待しています。

本町としても今後の支援策として、継続して既存施設の有効活用を促進し、チームの利便を図ります。さらに、施設整備計画の中に簡易な練習用の照明等既存の施設を有効に生かしての施策も視野に入れているから検討していきます。

議会改革調査 特別委員会

◆中間報告書

- 【調査事件】
- (1) 議会改革における議員の資質向上について
 - (2) 議員定数について

【調査結果】

これまで5回にわたり委員会を開催した。

議員の資質向上は結果的に自己研鑽以外になく、そのやり方は自己判断であり、町民のためになる施策を行うことがもつとも大切である。そのためにも議員活動を住民により知ってもらう機会が必要だ。議会開催中、庁舎や公共施設（生涯教育センター、病院等）で中継放映し、常に議会の活動をオープンにすることも考慮すべきである。

議員定数については、平成21年9月28日に全委員による集中審議を行い、次のとおり決定した。

議員定数を「14人」とする委員が10人、「15人」とする委員が4人いて、起立採決の結果、次回の選挙から定数を「14人」とする。

議会広報調査 特別委員会

【調査事件】

- (1) 議会広報発行の概要について
- (2) 議会広報の編集状況について

【調査期日】

平成21年10月26日（月）
27日（火）

【調査概要】

わかりやすく見やすい議会だよりの編集発行を目指し、上記事件調査のため先進地である福島県棚倉町議会と宮城県七ヶ浜町議会を視察した。それぞれの広報委員会の編集方法や作業状況の説明を受けたあと意見交換を行った。

【調査結果】

棚倉町・七ヶ浜町とも全体的に字が大きく、余白も多く、すっきりとしていて読みやすくなりやすい議会だよりとなっていた。まずは町民に読んでもらえる



広報先進地を参考に（七ヶ浜町）

議会だよりでなければ議会広報の使命は果たされないという、本委員会としての認識と共通している点から非常に勉強になった。中でも、一般質問は1人1ページとし、かならず写真を挿入すること、また委員は誇りと権限を持って提出された原稿を編集方針に沿って手直しをすること、最終校正は各担当者と読み合わせをしっかりと確認をすることなど、今後参考にすべき点が多くあった。

今を遡ること17年前に、週1回で延べ6ヶ月間、河北新聞に連載したエッセイの中で、現在に通じそうなものを抜粋して紹介致します。

石巻かほく（平成5年3月9日）



高校を卒業して上京し、足かけ十四年東京で過ごした。四畳半一部屋・トイレ炊事場共同（二十年前の学生としては当たり前だった）から出発し、勤めた頃には部屋六畳・台所五畳・トイレ付き、にまで出世した。

ところが最後の年に縁あって、銭湯に一度も行ったことのない妻（女川（仙台育ち）と所帯を持つことになり、ハタと困ってしまった。私の薄っぺらな給料では二十三区内（当時は一応山手といわれる所に住んでいた）に風呂（ふろ）付き二部屋を借りる余裕などありはしなかったからだ。そこで妻のいうその新婚生活の最低条件を求め

て東へ西へ…。行き着いたところが、「矢切の渡し」に乗って江戸川越えて、千葉県は松戸市。

引越しを終えて、転入手続きに市役所へ行った時のことである。正面玄関で「松戸市民のために役だつ人のいる所」略して松戸市役所」の看板に思わずニンマリさせられてしまった。日ごろお

行政のユーモア

堅いイメージの強い役所の予期せぬユーモアに、「この町を選んでよかったな。ここに住めば何かいいことがあるさうだ」と、ほんわか和らいだ気分になった。（近ごろたまに見かける交番の入り口の「いらっしやいませ」にも一脈通じるものがある）。

つづいて中に入ってい

くと、正面の一番目立つところに『すぐやる課』というのがあった。内容を伺ったところ、課長以下七人のチームで、住民の日常生活においての困りごと、広範囲にわたる要請に対して、文字どおりすみやかに対処していく課であるとのこと。具体的には、「通行に危険な道路の陥没の補修・ゴミ

を實踐していこうとする松戸市の姿勢は、おおいに評価されるべきである。役に立たない人はもちろんいないと思うが、さしずめ私の町、あなたの町の役所には、どんなキヤッチコピーが似合うだろう？。

（本郷隆・女川町金曜会
会員）

が詰まって水があふれている側溝の清掃・ハチの巣やイヌネコの死体の撤去」等の依頼が多く寄せられるさうだ。市民生活緊急部隊といったところか。

【追記】
ちなみに、松戸市・すぐやる課は、昭和四十四（1969）年に発足以来「すぐやらなければならぬもの、すぐやり得るものは、すぐにやりませ」をモットーに、現在でも大奮闘しています。

主な議員活動（9月定例会～12月定例会前）

- * 9月3～11日 9月定例会（平成20年度一般会計及び各種特別会計・決算）
- * 12日(土) 出島・江島 敬老会（15日(火) 寺間 敬老会）
- * 20日(日) '09 さんま収穫祭（参加人数 75000人）
- * 21日(月) 町内敬老会（町生涯教育センター）
- * 23日(水) 第39回 町戦没者追悼式(生涯教育センター)
- * 28日(月) 議会改革特別委員会…次回選挙より議員定数を2減して14人に

- * 10月1日(木) 第7回 石巻地区2市1町特別職・管理職員等研修会（石巻ルネッサンス館）
- * 4日(日) 町内各保育所 運動会（第四保育所に参加）
- * 5日～8日 議会広報編集委員会(議会だより119号)
- * 17日(土) 岩手県藤沢町「地域医療を考える 第336回現地研修会」…議員有志で参加
- * 18日(日) 町民大運動会
- * 19日(月) 議員全員協議会…地域防災計画について
総務企画常任委員会…合併の検証について
- * 21日(水) 議会広報編集委員会(議会だより119号 最終校正)
- * 23日(金) 認知症高齢者グループ施設 整備安全祈願祭 特養 永楽会 後援会設立総会(公民館)
- * 26日27日 議会広報編集委員会 研修視察（福島県・棚倉町、宮城県・七ヶ浜町）
- * 30日(金) 第7回臨時会…新型インフルエンザワクチン接種助成事業の補正予算
女川高校創立60周年 記念事業(女川高校体育館)

- * 11月3日(火) 町政功労者表彰式（生涯教育センター）
- * 4日～6日 原発対策特別委員会…プルサーマル研修（愛媛県・伊方原発）
- * 8日(日) 第25回 うみねこマラソン大会（陸上競技場 他）
- * 13日(金) 2市1町議会議員研修会…地方議会研究会代表 野村 稔（石巻文化センター）
- * 14日(土) 第2回 ふくしまつり(公民館)
- * 19日(木) 福岡県・岡垣町町議会 議会運営委員会が来町…視察対応
- * 23日(月) 町内商工業 永年勤続優良従業員表彰式（生涯教育センター）
- * 24日(火) 原発対策特別委員会 議会広報編集委員会
- * 26日(木) 福島県・会津坂下町 議会運営委員会が来町…視察対応

- * 12月5日(土) 家庭バレーボール協会 納会(海泉閣)
- * 9日(水) 議員全員協議会…12月定例会 議案の内容説明

『ほんごう通信第34号(07.11)』のP4編集後記で、「この会報をずうっと読んでくれている高校の先輩（役場勤務）が、文章の隅ずみにまで目を配り、時折記入ミスを指摘してくれます。まったくありがたいことです。と同時に、文面作成には慎重の上にも慎重に行わなければならないと、あらためて心しました」と、書いたのですが、またしても今回、同じ過ちを犯してしまいました。

P1下段の最後から10行目、「平成27年を25年と誤記していたのです。その他P4で曜日の間違いを2カ所、字句を1ヶ所指摘されました。N先輩、本当にありがとうございました。